

イドウトのmastabaの壁画の復元の試み

吹田 真里子*

An Attempt to Restore the Wall Painting of Mastaba Idout

Mariko SUITA*

[Abstract]

This is an attempt to restore the wall painting in the burial chamber of Mastaba Idout, Saqqara. The mastaba was constructed in Saqqara in the late Old Kingdom. At present, two thirds of the wall painting were detached from the walls. Comparing designs with two mastabas in Saqqara, I focused mainly on Mehu and Mereruka to restore the original painting of Mastaba Idout.

The common decorations of walls are black zigzag line frieze in the upper part, rows of brown, blue, yellow and green rectangles on both sides, a group of black line, wide brown line, black line, wide yellow line at the bottom. The contents of the wall painting are in general offerings and offering list, then, palace façade, granaries and so on. It was rare to depict live humans or animals.

In the burial chamber, there are paintings of some kinds of jars. The three main combinations of jars that we can see are: beer・water・beer, wine・beer・wine, and beer・wine・beer. Comparing the combination of jars among three burial chambers of Idout, Mehu and Mereruka, the jars of beer and wine are same in their designs among them. On the other hand, the jars with spots which contain water have a difference in color. Even though the color is different, it is supposed that the material of the water jar is same because of the shape and the combination. The jar should be made from spotted schist.

The reconstruction of painting design of the south side of west wall is shown in Fig. 8. It is possible to restore to great degree the detached wall painting by comparing it with wall paintings of other mastabas.

1 はじめに

本稿は、日本・エジプト合同mastaba・イドウト調査ミッションが、2003年から引き続き行っているサッカラにあるイドウトのmastabaを保存修復する際に必要な壁画の復元に関する試みの一つである。

このmastabaに関しては、1935年にマクラマッラー (R. Macramallah) が *Le Mastaba d'Idout (Le Caire)* という報告書を出版している。彼が報告書を出版した当時、埋葬室の壁画の保存状態は、当時の写真から判断するとおおよそ3分の1ほど剥落していたと思われる。その後2003年に調査した段階で、さらに3分の1ほど剥落が進んでいると思われ、これらの壁画の修復が急がれる状態となっていた。

* 関西大学文化財保存修復研究拠点 (非常勤研究員) (Kansai University, Institute for Conservation and Restoration of Cultural Properties)

このイドゥートのマスタバは、ウニス王のピラミッドの北東に位置し、本来、宰相であったイヒという人物のために建造されたもので、後にイドゥートの手に移った。従来、イドゥートはウニス王の娘と考えられていたが、2003年にカナワティによって、イヒをウニス王の末期、イドゥートをティ王の初期の時代にあたる人物として、イドゥートはティ王の娘と考えられる¹。ただし、確定した状況にはない。

今回の保存修復の対象になっている部分は、石灰岩台地の中、現在の降り口から地下約11メートルにある南北10メートル半、東西4メートル半、高さ3メートル半ほどの埋葬室の壁画である。この壁画は、石灰岩の母岩に数ミリの石膏のプラスターを塗って、その上に描かれているもので、これは埋葬室の壁画の典型的な例である。

本稿では、他のマスタバの埋葬室と比較してその特徴を明らかにし、さらに西壁を中心にして剥落していた壁画片を元の位置に戻すため、壁画に何が描かれていたのか復元する試みである。それには古王国時代のサッカラ地区にある52基の墓に残る資料から、埋葬室の壁画の描写の内容とその傾向を踏まえて行うものである。

それぞれの墓に描写されている内容は、組合せの違いはあるが共通している点も多い。埋葬室の出入口口では、楣とわき柱の部分に供物テキストや称号もしくは名前が描かれることが多く、この部分に描写が現存している24基の中で供物テキストがみられるケースが17基、そして称号もしくは名前に関しては16基である。これらの結果、出入口部分には被葬者に関する情報が記されていると考えられる。

次に壁面に描かれている描写に関して、Table 1にわかる範囲でそれぞれの面に描かれている描写を書きだした。壁面に描写が現存している墓が、52基のうち33基あり、出入口と同様に供物テキストが書かれている墓が16基ある。壁に多くみられる描写には、供物リストが23基の墓に描かれ、供物の絵もしくは供物の名前が描かれている墓が28基ある。また、穀物倉も多く見られ、18基の墓に描写されている。他には、王宮ファサードやチェストが描かれていることがある。

52基の墓の壁画には以上のような描写がなされているのであるが、これを踏まえて、イドゥートの埋葬室に描かれている壁画について見ていきたい。

2 イドゥートのマスタバ、埋葬室の壁画の内容

南壁は、イドゥートの壁画の中で一番保存状態の良い面で、4段に区切られて供物が描写されている。一番下の段には供物用の牛に、切り取られた脚が載せられているものが描かれている。墓の建造当時には、この牛の上部分に文字が書かれていたが、このマスタバはもともとイヒのために建造されたものであったため、イドゥートのためにこの墓が使用されたときに、彼女によって削り取られたと考えられている。

下から2段目から4段目には供物が描写されており、下から2段目の左端から、牛のリブの部分と前脚、レタスは大きめの薄い緑色で描かれており、それより2種類の少し小ぶりなものがメロン、その右隣の茶色の細長いものがパンで、その右隣にはロータスの飾りのついた黄色い覆い付のボウル、その右下の黄色い物体はパン、ビールの入った背の高い茶色のジャー、細い注ぎ口の付いた水を入れるための青色のジャー、[欠損部分（おそらくはビールの入った背の高い茶色のジャー、ぶどうが入られている茶色の入れ物やパンや瓜が載せられた丸い脚付の台）]、ロータスを入れた青色のボウル、ワインの入った背の高い黒色のジャー、ビールジャー、ワインジャー、そして低いテーブルの上には、両脇をレタスに挟まれて先ほどとは別の種類のパンが、その右隣にはビールジャー、ワインジャー、ビールジャー、細長いパン、そして右端には丸脚の付いた台の上に、ぶどうが入られている茶色の入れ物がパンとともに描かれている。

1 N. Kanawati, M. Abdel-Raziq, *The Unis Cemetery at Saqqara*, Vol. 2, Oxford, 2003, pp. 36-37.

下から3、4段目には、2段目とほぼ同じ供物が異なった配列で描かれている。下から4段目は剥落が進んでいるが、1935年にマクラマッラーによって書かれた当時の報告書の写真からかなりの部分を復元することが可能である。

これらの供物の描写は四方を装飾帯で囲まれている。上部は、現在でも南壁東寄りの上部に残っているが、黒線のジグザグ模様が1列施されていたと思われる。また供物の描写の段の下には、黒色の細帯、茶色の帯、黒色の細帯、黄色の帯があり、その下は黒色の顔料で塗りつぶされているが、その顔料は剥落している箇所もある。また左右両端には、下から青色、茶色、白色もしくは緑色、黄色の長方形のブロックが交互に続き、それを白と黒の線で区切った帯がある。この装飾帯の形式は、他の壁にも共通している点である。

北壁はこのマスタバの4面の中では1番保存状態が悪く、剥落している部分が多く、顔料も他の壁面と比べるとあまり鮮明ではない。内容は中央に、供物リストが描かれており、その下には2段にわたる供物の描写が描かれている。さらにこの供物リストと供物の描写の両脇は5段に分けられており、それぞれの段に供物が描かれている。描かれている供物の内容は、南壁と共通するものが多く、その両脇と供物の描写の下には、これも南壁と同じように装飾帯が描かれている。そして上部には、文字が描かれていたと思われる。

東壁には、北壁と同じ形式で、供物リストと供物の描写があり、供物リストの上には、今でも文字が描かれていた形跡がみられる。これも南壁の文字と同様に、イドゥートによって削り取られたと思われる。供物の描写の内容は南壁のものに加えて、供物リストの右の下から3、5段目にヘス・ジャーや、下から3段目に供物用の鳥が描かれている。また供物の描写の両脇には、装飾帯が描かれている。

また埋葬室の入口を挟んだ南寄りの東壁には、4段に分けられて供物が描写されている。最下段には供物用の牛と切り取られた脚が描かれ、下から2、3、4段目にはそれぞれの段に2個ずつ箱が描かれている。下から3段目には、右に黄色と黒色で装飾された箱と、左に茶色の枠で表面がピンク色の箱の一部が描かれている。そして下から2段目の右側に茶色の枠で表面がピンク色の箱が描かれていることを考えると、その左側には黄色と黒色で装飾された箱が、下から4段目には、右側に茶色の枠で表面がピンク色の箱が、左側に黄色と黒色で装飾された箱が描かれていたと考えられる。

西壁は石棺の蓋を置くための壁がんと挟んで、壁画が描かれている。西壁の石棺蓋置き場を挟んだ南寄り (Fig. 1) は4段に分けられ、最下段にはメレット・チェスト、2、3、4段目には南壁で見た供物が描かれており、その右横には王宮ファサードの装飾模様が描かれている。この模様は、マスタバの上部構造の偽扉にも用いられることがあり、上部構造においては西壁に描かれることが多い模様である。そして石棺の蓋置き場を挟んだ北寄りの壁 (Fig. 2) には、再び5段にわたって供物が描写されている。最下段には、供物用の牛が、切り取られた脚を載せたものが2頭描かれており、下から2段目には右手から脚付供物台の上に供物が載っている物や、ビールジャーやワインジャーが描かれ、下から3、4段目には、壺が描かれている。下から5段目は右端に区切りのための黒線と、その上に茶色の顔料が少し残っているのみである。そして一番上には文字が書かれていたと考えられる。

3 メフ、メレルカのマスタバの壁画との比較

ここでイドゥートのマスタバの埋葬室の壁画を復元するために、時代が近く、保存状態の良い2つのマスタバと比較したい。1つ目はイドゥートの隣にあるマスタバで、第6王朝初期のイドゥートの息子と思

われる² 宰相メフという人物のもの、そして2つ目は、同じく第6王朝初期のテティ王の時代の宰相であるメレルカという人物のmastabaを用いる。

初めに比較するmastabaは、イドウトの隣に位置する宰相メフのものである。埋葬室は地下5メートルのところに位置しており、上から見ると形はT字型をしている。Tの字の上部分が東に当たり、埋葬室の入り口は東壁に作られている。メフの埋葬室の壁画は、泥のplasterで出来ており、イドウトのものとは材質は異なるが、供物の描写を比較する点では、保存状態も良く、ジャーなどの土器の模様も丁寧に描かれているので貴重な史料になりえる。

埋葬室の東壁にある入り口の北寄りには供物リストが、その下には屠殺された牛に切り取られた脚を載せたものが描かれている。さらに供物リストと入口の間には、3段にわたって供物の絵が描かれている。最下段には供物リストの下から、引き続き屠殺された牛が脚を載せて描かれており、その上を2段に分けて供物が描かれているが、剥落部分が多く、供物台の脚や、パンなどがわずかに見えるだけである³。

装飾帯に関しては、上端は白地に黒色のジグザグ模様で、また供物の描写の下には、黒色の細帯、茶色の帯、黒色の細帯、黄色の帯、その下は黒色で塗りつぶされている。そして脇は茶、青、黄、緑の長方形のブロックを白と黒の線で区切った帯で装飾されている。これらの装飾帯は、壁のどの面にも見られ、イドウトの埋葬室の形式と共通している。

同じく東壁の入り口の南寄り (Fig. 3) には、3段にわたって供物が描写されており、一番下の段には、入り口の北寄りの壁から続いて、屠殺された牛に脚を載せたものが4頭描かれている。そして下から2、3段目には、イドウトの埋葬室にもみられた供物が描かれている。例えば、低いテーブルの上にある茶色の容器に入ったぶどうやその隣に置かれたパン、ビールの入った黒い蓋の付いた茶色の背の高いジャー、ワインの入った白い蓋付の黒色の背の高いジャー、また下から2段目にあるビールジャーに挟まれた中央のジャーは水を入れるためのものである。

埋葬室の北壁 (T字上部の左端にあたる) には、一番上に果物の山が描かれており、その下には支柱の付いた黒色の倉庫が7棟描かれている。倉庫の上にそれぞれ書かれているヒエログリフは、倉庫の中身を表しており、剥落している部分もあるが、判読できるものから倉庫の中身は葡萄やオオムギが入れられていたと見られる。

他には、南壁 (T字上部の右端にあたる) には壁がんに設けられており、その部分には何も描かれていないが、壁がんの下には布の入った箱が1段描かれており、その両脇は4段にわたって同様に布の入った箱が描写されている。

西壁 (T字下部にあたる) の凹んだ部分には石棺が置かれているが、石棺を挟んだ西壁の南寄りの壁 (Fig. 4) は3段に分かれており、1段ずつに3台の低いテーブルが描かれ、その上には3個ずつ壺が置かれている。それらはオイルや軟膏が入っていると考えられ⁴、黒地に白い斑点や白地に黒い斑点、または黄色で着色されており、形も円筒形のもの、胴が膨らんだもの、取っ手が付いたものがある。そして石棺を挟んだ西壁の北寄りには、3段に分けられた1番上の段には布の入った3個の箱、2段目には7個の軟膏とオイル、3段目には3個の装飾品の入った箱が描かれている。

次に比較するのが、メレルカの埋葬室である。宰相であるメレルカのmastabaは、ジョセル王の階段ピラミッドの北にあるテティ王のピラミッドの北に位置しており、埋葬室は地下約16メートルのところにある。メレルカの埋葬室の壁画は、石灰岩のブロックに直接描かれており、この埋葬室も材質の点では、

2 J.-P. Lauer, *Saqqara: The Royal Cemetery of Memphis*, 1976, London, p. 147.

3 H. Altenmüller, *Die Wanddarstellungen im Grab des Mehu in Saqqara*, 1998, Mainz, pp. 210-15.

4 *Ibid.*, p.215.

イドゥートのものと異なるが、供物の描写は非常に緻密になされている。

埋葬室の入り口は、イドゥートやメフの場合と同様に東壁にあり、その壁には4段に分けて供物が描かれている(Fig. 5)。最上部には2行にわたってテキストが記されている。そして1番上の段と2段目には、丸脚の付いたかごに積まれたいちじく、肉、レタス、ビールやワインの入ったジャーや水差し、メレト・チェスト、パンなどが描かれている。3段目には支柱の付いた倉庫が、4段目には切り取られた脚を載せた屠殺された牛が描かれている。他の埋葬室と同じように、これらの描写の上には文字が書かれており、下には黒色の細帯、茶色の帯、黒色の細帯、黄色の帯で装飾されている。また左右両端は、青、茶、黄の長方形のブロックを白と黒の線で区切った帯で装飾されている。

入口の正面にあたる西壁の前には石棺が置かれており、石棺の蓋を置くために用いたと思われるスロープが石棺へと続いている。そのスロープの両脇には王宮ファサード(Fig. 6)が描かれている。

北壁と南壁には、東寄りから4段にわたってイドゥートの埋葬室に描かれていたような供物が描かれ、中央に供物リスト、その隣の西寄りの壁には王宮ファサードが描写されている。

次にイドゥート、メフ、メレルカの3つの埋葬室の壁画との比較から、イドゥートの埋葬室の壁画を復元するため、いくつかの点を指摘したい。

まず、3つの墓の共通点は、埋葬室への入り口は3基とも東壁に作られており、石棺は西壁の前に置かれている。そして、それぞれの壁面は、上端は白地に黒のジグザグ模様、供物の描写の下には、黒色の細帯、茶色の帯、黒色の細帯、黄色の帯で装飾されている。また左右両端は、茶、青、黄、緑の長方形のブロックを白と黒の線で区切った帯で装飾されている。

次に相違点であるが、王宮ファサードの模様の場合、イドゥートとメレルカの埋葬室では西壁に描かれているが、メフの埋葬室にはどの面にも描かれていない。また、供物リストはイドゥートの場合、北壁と東壁に、メフの場合は東壁に、メレルカの場合は北壁と南壁に描かれており、供物リストに関しては、規則性は見られないと思われる。

次にメフとメレルカの埋葬室に見られる支柱の付いた黒い倉庫は、メフの場合は北壁に、メレルカの場合は東壁の入り口の上に見られる。イドゥートの場合、現在、壁面上に残っている中にはこの倉庫は見られないが、東壁の入り口の周りは剥落がひどく何も残っていない状態である。もしこの倉庫の絵が本来、描かれていたとしたら、この入口の周りに描かれていた可能性が高いであろう。

次に、イドゥートの壁画の描写の中で、他の埋葬室と比べて特徴的な点を考察したい。それは、数箇所にならって描かれている、青色に着色された土器の類に関してである。イドゥートの埋葬室に描かれている土器の中で、青色に着色されているものは、ロータスを入れたボウル、水を入れるジャー、黄色い覆いのついたボウルである。

メレルカとメフの埋葬室を見てみると、イドゥートの埋葬室の壁画では、青色で着色されていた水を入れるジャーと黄色い覆いのついたボウルと同じ形のものを見つけることができる。しかしメレルカの場合、色は青色であるが、イドゥートのように青色に塗りつぶしてあるのではなく、模様のように描かれている。水の入ったジャーも、青色の下地に斑点のようなものが描かれており、そしてメフにいたっては、白地に黒色で模様が描かれているのが明らかである。

これらと似たものを現在残っているものの中から探した結果、可能性のある材質が一つ浮かび上がる。それは、サッカラのジョセル王の階段ピラミッドの地下通路から出土した斑点のある片岩でできた壺である(Fig. 7)。イドゥートの壁画のボウルや水が入っているジャーには、斑点は描かれていない。これら3つの壁画の描写を比較した場合、ビールやワインが入っているジャーは、3つの埋葬室でどれも同じ色で統一されている。そのため、イドゥートの埋葬室に青色で描かれている土器は、他の2つの埋葬室に描かれているものと、模様など細部に違いはあるが、ジャーとしては同じものであると考えられ、斑点のある

片岩で作られたジャーやボウルが壁画の上では、青色で表されている可能性がある。

4 イドウトのmastaba埋葬室西壁の石棺の蓋置き場を挟んだ南寄りの壁の復元 (Fig. 8)

この章では、第3章で指摘した点をもとに、イドウトのmastaba埋葬室西壁の石棺の蓋置き場を挟んだ南寄りの壁の部分を復元したい。

この章で復元する西壁の石棺の蓋置き場を挟んだ南寄りの壁に描かれている模様は、王宮ファサードと呼ばれている。これは一つには、生前の王が住んでいた王宮の周壁を模したものであると考えられている⁵。

復元方法としては、マクラマッターの白黒の写真を置き、これを第1レイヤーとしてその上に、2003年に修復を始める前の写真を第2レイヤーとして重ねた。そしてその上に、抜けている部分を筆者が描いた。黒線は復元が疑いなく明らかなもの、青線は筆者が残っている部分から、比較、推測をして復元した部分である。

西壁の南寄りには4段に分かれていると思われる、下から1段目には現在残っている部分から、メルト・チェストが4個並んでいたと復元できる。下から2段目にはパンの上部部分のみとビールジャーの一部が欠けているだけで、復元は容易である。次の下から3段目部分から剥落部分が多くみられる。脚のない台の上に、供物が載せられている図が描かれているのであるが、この供物台はmastabaの上部構造の壁面にみられるものに似ている。それと比べると、台の下に描かれているパンと同じ色で描かれている茶色の物体は、青い線で描いたように左右に2個に分かれていると考えるべきである。ほぼ残っている中央に描かれているパンの上には、牛の脚を切り取ったものが、その右には骨付きの肉とパンが、それらを覆うようにレタスが描かれている。さらにその上には、青色で瓜が描かれている。それらの左にあるパンの上には、少し残っているオレンジ色の顔料と描かれている位置から骨付き肉が描かれていたと思われる。

下から4段目には、ワインジャーの下部分と牛の頭の一部と瓜の一部しか現存していない。この現存している部分を南壁 (Fig. 9) と東壁 (Fig. 10) の現存している絵と比べた結果、葡萄を入れた青い容器やパンや瓜を載せた脚付供物台が描かれていたと思われる。さらに、構造としては下から2段目と似ていると思われる、復元した供物台の左にワインジャーを加えた。これらの上には、痕跡からヒエログリフが書かれていたと思われる。

次に王宮ファサードの部分に関して、まず中央に位置している扉の部分は、下部分がすべて剥落しており、本来の絵が明らかではない。従って、この部分と似ている絵をメレルカのmastabaから探し出し比較した。メレルカの西壁に描かれている王宮ファサード (Fig. 6) は下部分もきれいに残っており、それと同様に復元したものが青線で記されている。次に、扉をはさんで幾何学模様が左右対称に描かれている。この扉の両脇には水色のジグザグ模様が描かれている。これは、四角の列を2重のジグザグ線で装飾したものである。その隣には、1列に描かれた黒い点を曲線の縁飾りで装飾されている模様である。これは、葦やパピルス束を束ねたものを表している西壁南寄りの黒のジグザグ模様を変形させたものである⁶。この上

5 マーク・レイナー、『図説ピラミッド大百科』、東洋書林、2001年、72～81頁。

しかし、ここに描かれている模様は筵に編み込まれた模様や布に織られた模様を模倣したものであり、これは先王朝時代の「ペル・ウェル (大いなる家)」と呼ばれる礼拝堂を模したものであるとも考えられている。さらにこの王宮ファサードの模様は、メレルカのmastabaでは上部構造の偽扉にも用いられていることを考慮すると、王宮の周壁の模倣というより、宗教的要素を表しているものと考えべきである。

6 W. M. F. Petrie, *Egyptian Decorative Art*, London, 1895, pp. 103-04.

には、茎で結わえられた2本のロータスが水色で描かれている。そして次に格子模様が描かれているが、これは織物から採られた模様であると思われる⁷。西壁の王宮ファサードは、これらの模様が繰り返し描かれているのである。

このように王宮ファサードの模様の復元は繰り返しが多いため、絵を復元すること自体は比較的容易である。

5 まとめ

以上、イドウトの埋葬室の壁画の分析と、同時代の他のマスタバの壁画を比較して、壁画の描写の位置関係の割り出しと、イドウトの壁画の描写の中に特徴的な、青色に着色された土器について考察をした。

埋葬室の壁画の形式の特徴は、次のような点である。埋葬室への入り口は東壁に作られることが多い。そして、それぞれの壁面は、上端は白地に黒のジグザグ模様、供物の描写の下には、黒色の細帯、茶色の帯、黒色の細帯、黄色の帯で装飾されている。また左右両端は、茶、青、黄、緑の長方形のブロックを白と黒の線で区切った帯で装飾されている。描かれている内容は、供物、供物リストが圧倒的に多く、他には穀物倉や王宮ファサードがみられるが、生きた人間や動物が描かれることはまれである。

また壁画に描かれている土器に関しては、ビールやワインが入っているジャーは、今回比較した3つの埋葬室でどれも同じ色で統一されている。しかし、斑点の付いた土器は色の違いがみられる。これはジャーの組み合わせから、色の違いはあるが同一種のものであると考えられる。これは、斑点のある片岩で作られたジャーが、イドウトの埋葬室の壁画では青色で表されていると考えられよう。

今回は、西壁石棺蓋置き場を挟んだ南寄りの復元を試みた。このようにイドウトのマスタバ内の他の壁面や他のマスタバの壁画と比較することにより、かなりの部分を復元することが可能である。

参考文献

- H. Altenmüller, *Die Wanddarstellungen im Grab des Mehu in Saqqara*, 1998, Mainz.
- A. Badawy, *The Tomb of Nyhetep-Ptah at Giza and the Tomb of 'Ankhn 'ahor at Saqqara*, California, 1978.
- P. Duell, *The Mastaba of Mereruka*, 2 Vols. Chicago, 1938.
- A. Donson, S. Ikram, *The Tomb in Ancient Egypt*, London, 2008.
- N. Kanawati, M. Abdel-Raziq, *The Unis Cemetery at Saqqara*, Vol. 2, Oxford, 2003.
- N. Kanawati, M. Abdel-Raziq, *The Teti Cemetery at Saqqara*, Vol. 7, Warminster, 2001.
- N. Kanawati, A. Hassan, *The Teti Cemetery at Saqqara*, Vol. 2, Warminster, 1997.
- J.-P. Lauer, *Saqqara: The Royal Cemetery of Memphis*, 1976, London.
- R. Macramallah, *Le Mastaba d' Idout*, Le Caire, 1935.
- W. M. F. Petrie, *Egyptian Decorative Art*, London, 1895.
- P. von Zabern, *Official Catalogue, The Egyptian Museum Cairo*, Mainz, 1987.
- マーク・レイナー、『図説ピラミッド大百科』、東洋書林、2001年。

⁷ *Ibid.*, p. 44.

本研究は、「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 20 年度～平成 24 年度）」によって行われた。



Fig. 1 イドゥート西壁石棺蓋置き場を挟んだ南寄り



Fig. 2 イドゥート西壁石棺蓋置き場を挟んだ北寄り

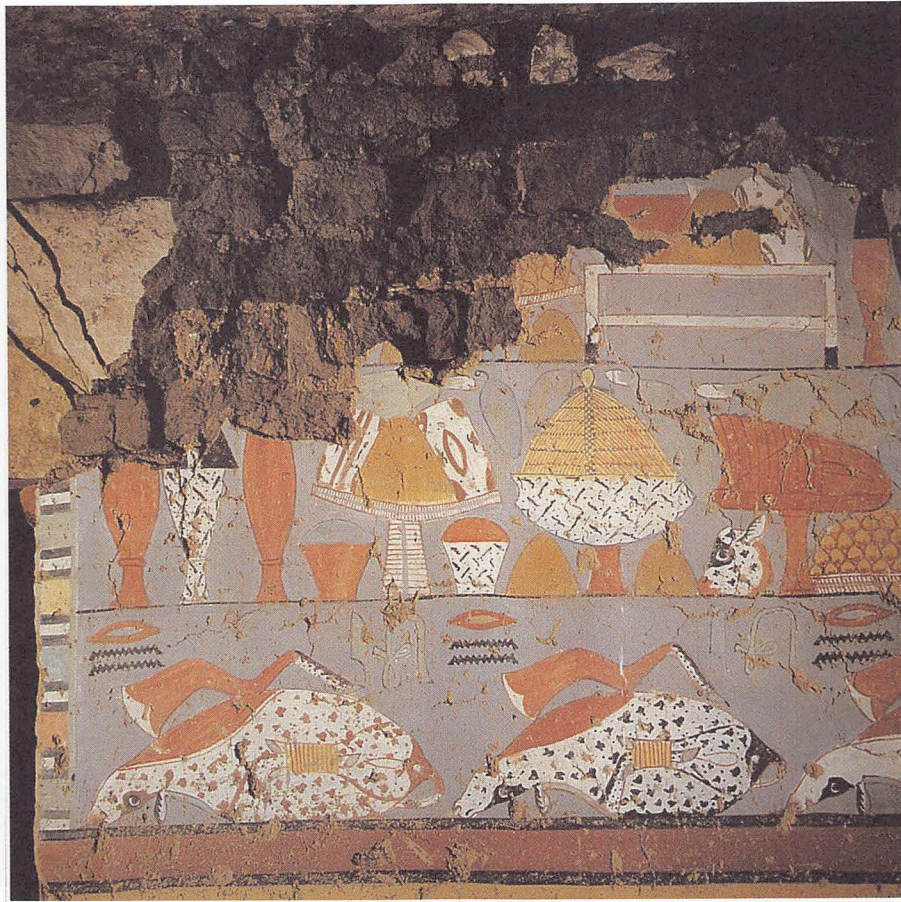


Fig. 3 メフ東壁入口南寄り
 H. Altenmüller, *Die Wanddarstellungen im Grab des Mehu in Saqqara*, 1998, Mainz, Tafel 99-a.



Fig. 4 メフ西壁南寄り
 H. Altenmüller, *Die Wanddarstellungen im Grab des Mehu in Saqqara*, 1998, Mainz, Tafel 98-4.

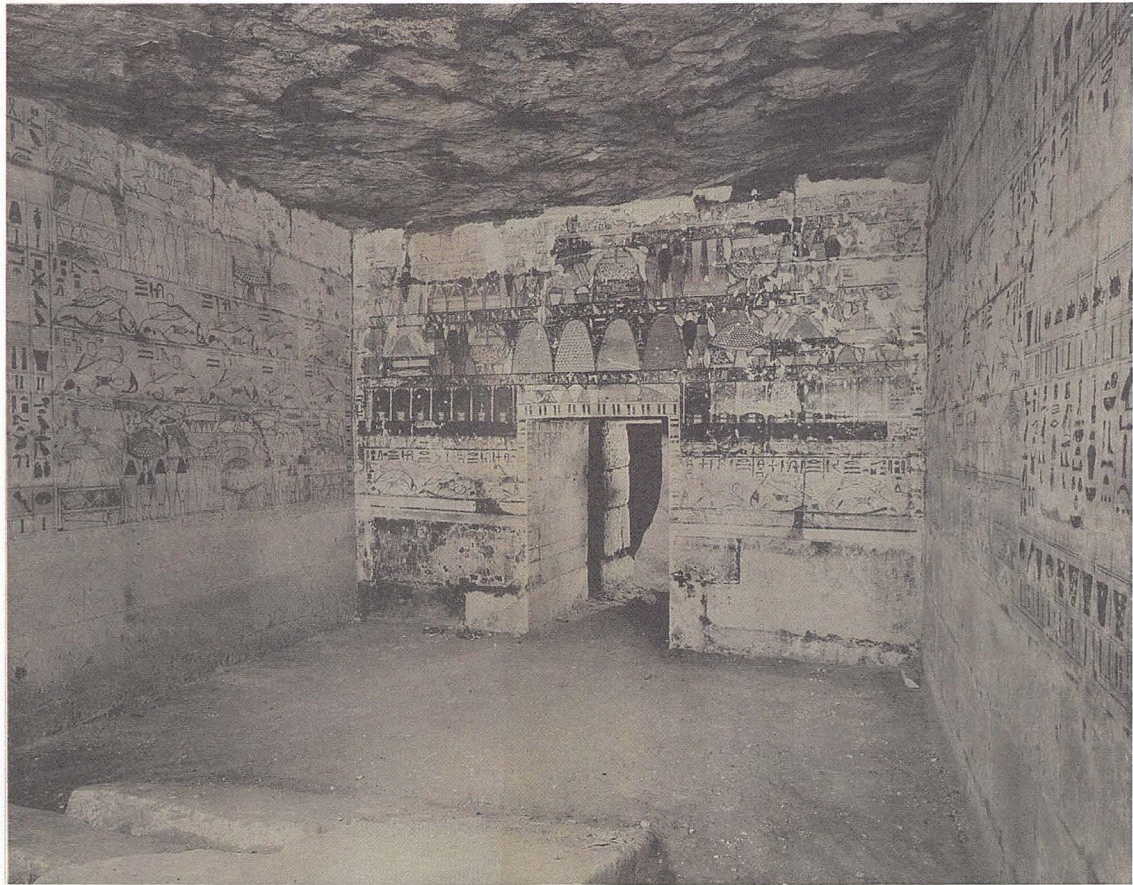


Fig. 5 メレルカ東壁
P. Duell, *The Mastaba of Mereruka*, Vol. 2. Chicago, 1938, Plate 200-A.

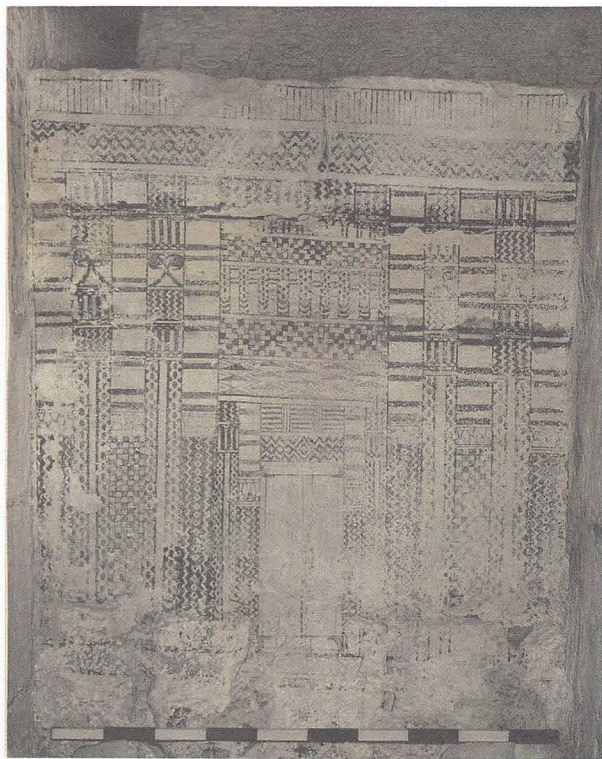


Fig. 6 メレルカ西面王宮ファサード
P. Duell, *The Mastaba of Mereruka*, Vol. 2.
Chicago, 1938, Plate 209-A.

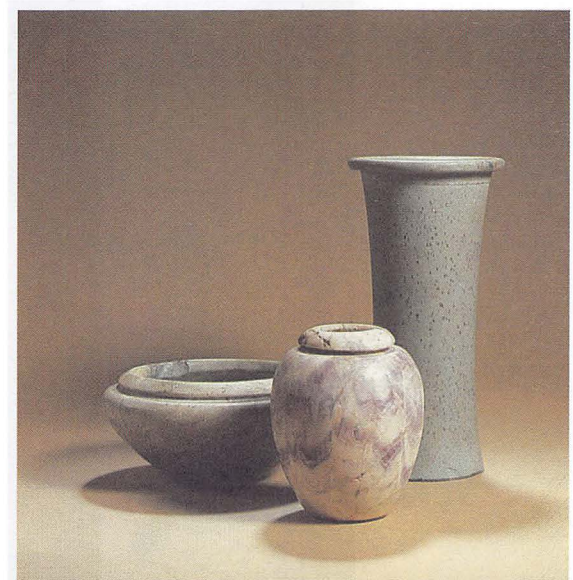


Fig. 7 右端 斑点のある片岩製の壺
サッカラ、ジョセル王の階段ピラミッドの地下通路出土
(Official Catalogue, *The Egyptian Museum Cairo*, No. 20)

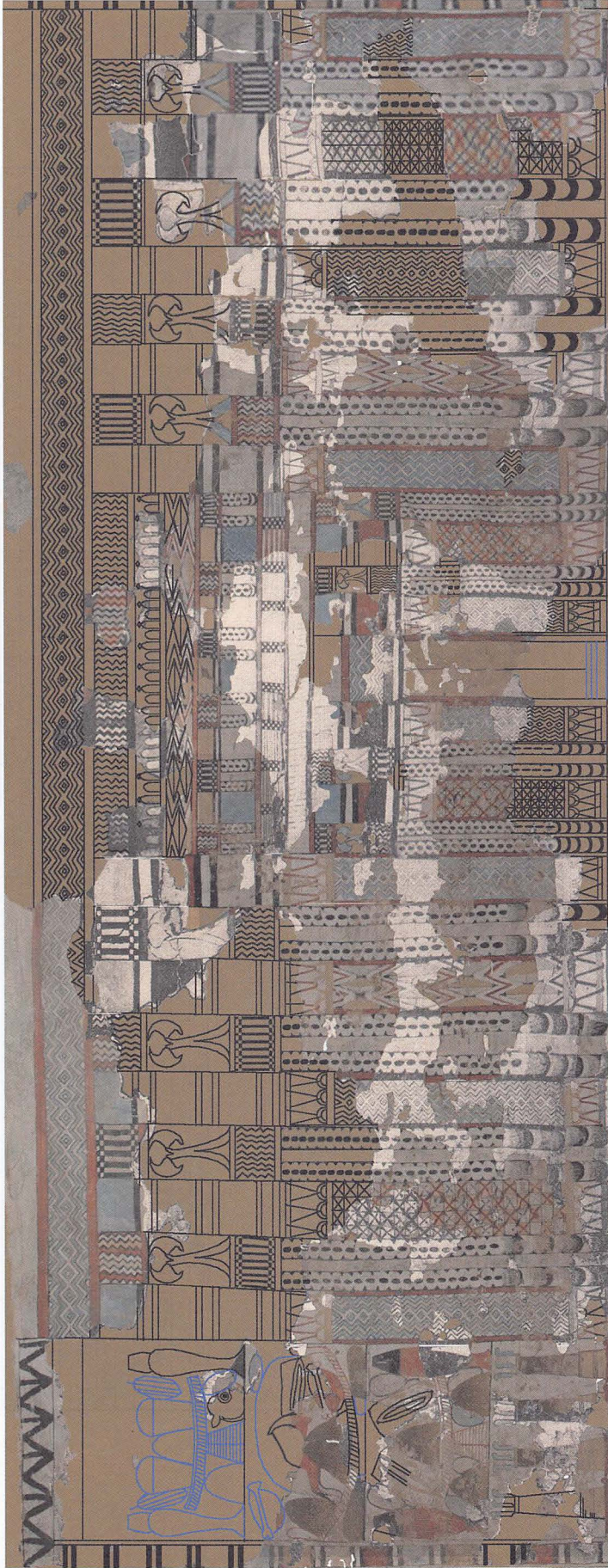


Fig. 8 イドゥー ト西壁石棺蓋置き場を挟んだ南寄り復元図



Fig. 9 牛の頭部と供物台 (南壁の一部)



Fig. 10 牛の頭部と供物台 (東壁の一部)

内容 (出入り口)	内容 (壁面)	内容 (どこに描かれているのかはっきりしない)	数
		供物	1
		供物リスト	1
	(壁面) 供物リスト・穀物倉・副葬品・葬祭テキスト	供物・倉庫・供物テキスト	1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキストと称号	(壁面) 供物リスト・穀物倉・副葬品・葬祭テキスト		1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキストと称号	(壁面) 供物リスト・穀物倉・副葬品・葬祭テキスト		1
(出入り口) 欄の上に描かれた称号	(壁面) 供物テキスト・供物リスト・供物		1
(わき柱) 供物リスト			1
(欄・わき柱・壁面) 供物テキスト			1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキストと称号	(壁面) 供物テキスト・穀物倉・供物		1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキストと称号	(壁面) 供物テキスト・供物リスト・穀物倉・供物		2
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキスト	(壁面) 供物テキスト・供物リスト・穀物倉・供物		1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキスト	(西壁) 供物テキストと供物・王宮ファサードと称号の付いた壁がん		1
(出入り口) 欄に供物テキスト	(壁面) 供物リスト・名前・供物・称号		1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキスト・称号	(壁面) 供物リスト・供物		2
(出入り口) 欄にテキストの跡	(壁面) 供物テキスト・供物リスト・供物		1
(欄) 供物テキスト (わき柱) 称号	(壁面) 供物テキスト・穀物倉・供物		1
(出入り口) 欄に供物テキスト・わき柱に称号	(壁面) 供物テキスト・穀物倉・供物		2
(出入り口) 供物テキスト (欄とわき柱) 称号	(壁面) 供物テキスト・供物リスト・穀物倉のテキスト・供物の名前		1
(出入り口) 建築中の墓の形式的なテキスト・欄とわき柱に髣し文句	(壁面と壁がん) 供物テキスト・供物リスト・穀物倉・供物		1
	(第1・2埋葬室) 供物・供物リスト・テキスト		1
	(東壁) 供物リスト		
	(南・西壁) 供物		1
	(北壁) 副葬品		
(出入り口・通路の壁) 10行のテキスト	(東壁) 供物・倉庫 (西壁) 王宮ファサード (南壁) 供物・供物リスト・王宮ファサード (北壁) 供物・供物リスト・王宮ファサード		1
	(壁全面) 供物	供物リスト・供物・穀物倉・王宮ファサード	1
	(東壁) 供物リスト		
	(西壁) 羽が上部に付いているチェスト・王宮ファサード		1
		供物・壁に描かれた副葬品	1
		供物テキスト・供物リスト・供物の名前	1
		供物テキスト・供物の名前	3
	(東壁) 3段にわたって供物・穀物倉・縛られた牛		
	(西壁) 6つのチェスト		1
	(北壁) 供物リストの跡		
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキスト・名前・称号	(壁面) 供物・テキスト・供物の名前		1
	(壁面) 供物		2
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキスト	(壁面) 供物		1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキスト			1
(出入り口) 欄とわき柱に名前の跡・低い部分に供物リスト			1
(出入り口) 欄とわき柱に供物テキスト	(壁面) テキスト		1
(出入り口) わき柱に名前	(壁面) 供物リスト・穀物倉		1
		供物リスト・穀物倉・供物の名前	1
(出入り口) 故人の名前の跡	(壁面) 供物リストの破片・穀物倉のテキスト・名前・称号		1
	(壁面) 供物・供物テキスト・供物と穀物倉のテキスト		1
	(壁面・天井の岩) 供物テキスト・穀物倉・供物・供物リスト		1

Table 1 古王国時代サッカラ地区にある52基の墓の埋葬室の描写
(この表は、A. Donson, S. Ikram, *The Tomb in Ancient Egypt*, London, 2008, pp. 183-85の表をもとに筆者が加筆したものである。)